

平成27年度「全国学力・学習状況調査」における 筒井 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成27年4月21日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数, 理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数, 理科)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none">・ 身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・ 実生活において不可欠であり、常に活用できようになっていることが望ましい知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・ 様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※ 本校の6年生は、単学級ですので、個人が特定されるような公表の方法については、配慮しています。

筒井 小学校「平成27年度 全国学力・学習状況調査」の結果について

1. 教科に関する調査結果の概要

① 学力調査(国語A・B, 算数A・B, 理科)結果

		国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	理科
平成 2 5 年度	本市	60.3	46.3	74.6	56.5	
	全国	62.7	49.4	77.2	58.4	
平成 2 6 年度 (理科：平成24年度)	本市	69.1	52.6	76.2	55.4	59.7
	全国	72.9	55.5	78.1	58.2	60.9
平成 2 7 年度	本市	67.1	62.1	73.3	43.7	57.3
	全国	70	65.4	75.2	45	60.8

② 学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	話すこと・聞くことや書くことはできているが、読むことに課題が見られる。
	よくできた問題	漢字を正しく読むことや書き方の工夫として適切なものを選ぶことは正答率が高い。
	努力が必要な問題	コラムの中で筆者が引用している言葉を選ぶ問題での正答率が低い。
国語B	全体的な傾向や特徴など	国語への関心や意欲が高く、目的に応じて読んだり書いたりすることができている。
	よくできた問題	目的に応じ、中心となる語や文を捉える問題や文章の内容を的確に押さえながら要旨を捉える問題の正答率が高い。
	努力が必要な問題	声に出して読むときの工夫とその理由を書く問題で正答率が低く、無解答率も高い。
算数A	全体的な傾向や特徴など	全体的にどの領域においてもよくできている。数と計算において、さらに計算力を確実に身に付けさせるようにする。
	よくできた問題	式で表された数量の関係を図と関連づけて理解する問題での正答率が高かった。
	努力が必要な問題	異分母分数の減法の計算での正答率が低かった。
算数B	全体的な傾向や特徴など	図形についての正答率が低く、図形の性質を基にして理由を記述する問題で苦手意識が感じられる。図形の性質についての理解を確実なものにすることが必要である。
	よくできた問題	目的に応じた買い物の仕方を選択して代金を求める問題や示された部分の面積を求める問題での正答率が高かった。
	努力が必要な問題	長方形の性質を基に分割された2つの図形の面積が等しくなる理由を記述する問題での正答率が低かった。
理科	全体的な傾向や特徴など	全体的に理解はできているが、記述式の問題での苦手意識が感じられる。
	よくできた問題	打ち水の効果についてグラフを基に地面の様子と気温の変化を関係付けながら考察して分析する問題での正答率が高い。
	努力が必要な問題	析出する砂糖の量について分析するためグラフを基にして考察し、その内容を記述する問題での正答率が低い。

⑤ 学校における学習状況に関する調査結果の分析

- ・学習の中でめあてやまとめを書く習慣は身に付いており、学習のねらいを把握して授業に臨む姿が見られる。また、まとめや振り返りを行うことで、知識理解が定着している傾向にある。
- ・友達に自分の考えを説明したり、自分の考えを文章で表したりすることに苦手意識をもつ児童も多く、積極的に話し合う活動を通してさらに自分の考えを深めようとしている児童は少ない。考えを広げ、深めるための話し合い活動を授業の中にさらに取り入れる必要がある。
- ・国語や算数、理科の勉強はととても大切で、将来役に立つと感じている児童の割合は高い。

2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

① 家庭学習習慣に関する調査結果の分析

・国語や算数、理科の学習では理解ができています。わからない問題に出会ったときはすぐに先生に尋ねたり、家の人に聞いたりが功を奏しているといえるが、分からないことをそのままにしている児童も多く見られる。
・家で学校の宿題をすることはきちんと身に付いているが、自分で学習の計画を立てたり、予習・復習に取り組んだりする児童は少ない。

② 生活習慣等に関する調査結果の分析

・家で読書をする児童も多くいるが、平日のテレビやDVDの視聴、ゲームの時間が全国平均に比べて長時間である児童の割合も高い。
・テレビやインターネットのニュース番組を見る児童が多く、社会への関心の高さがうかがえる。
・早寝、早起き、朝食を食べる習慣はほぼ定着している。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組(全校・学年・学級・教科毎の取組)

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

◎学力向上のための特設時間の実施

朝自習をチャレンジタイムとして、月曜日は計算、火曜日は読書、水曜日は習熟度別算数、木曜日は造形活動、金曜日は視写に取り組ませる。

・小中連携サポーターを計画的に各学年に配置する。具体的には、学習活動の補助や学習プリントの整備等を行う。

◎授業の中での手だて

・1時間のめあてを明確にし、見通しをもった学習活動を展開する。

・視点をもった話し合い活動を行い、自分の考えや意見を自信をもって言えるような場を増やしていくようにする。

・まとめや振り返りを行い、学びの足跡をノートに記すようにする。

・学習したことを活用する場面を取り入れた学習を行う。

◎過去問やアシストシート、活用力を高めるワークなどを冬休みや春休みの課題に取り入れるなど効果的に活用しながら、思考力や表現力を養うようにする。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・早寝、早起き、朝ご飯といった基本的な生活習慣のさらなる定着を目指して保護者への啓発を行う。

・携帯やスマホを所持または使用する児童が多くなっている現状から、その好ましい使い方について学習する機会を設定するなどして、トラブルのない使い方を身に付けさせるようにする。

・「家庭学習チャレンジハンドブック」を活用して、自主学習の仕方を身に付けさせるようにするため、保護者にも再度呼びかけるとともに、チェックリストを活用して担任が学期に1回以上は点検を行うようにする。

・「筒井小 家庭学習の手引き」を作成して、各家庭に配布する。標準的な学習時間や学習内容を家庭にも知らせ、宿題だけでなく、読書や自主学習にも取り組めるようにする。

・学習意欲を喚起するために、学習用具をきちんとそろえて学習に臨めるよう、家庭にも協力を呼びかける。

・学校では「あなた」運動に取り組んでいる。(あ…あいさつをしよう な…なふだをきちんとつけよう た…ただしくそうじをしよう)これを家庭にも呼びかけ、さらに子どもたちの生活習慣として身に付くよう協力を呼びかける。